

がん教育推進自治体視察レポート

オンライン配信を活用した２校が繋がるがん教育の授業

1. 概要



場所	和歌山県田辺市立上秋津中学校（配信元）：2年生教室 和歌山県田辺市立上芳養中学校（配信先）：2年生教室
日時	令和7年12月5日（金）13:15～14:05 ＜5時間目＞
対象学年・人数	上秋津中学校：2年生 31名 上芳養中学校：2年生 9名
教科・単元名	特別活動
授業者	上秋津中学校：平 拓也 教諭 上芳養中学校：森本 健太郎 教諭
外部講師	和歌山県がん患者連絡協議会 会長 岡本 久子 氏（配信元から参加）
選定理由	外部講師を活用したがん教育について、複数の中学校（2校）をオンラインで接続して同時に授業を実施する取組状況の把握と共に、外部講師の派遣が難しい地域においても外部講師を活用した授業を行う上で、本授業が他自治体の参考となると考えたため。





2. 授業内容

<授業のねらい>

がんの発症から治療までの患者の生活に目を向け、患者の思いを知ると共に、接し方や予防について、考えることができるようにする。

<授業の流れ>

導入（約5分）	<p>平教諭による事前学習の振り返りと本時のめあての確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入：がんについて知っていることやイメージ、疑問を挙げてみよう。 →前回の授業で確認したがんに対するイメージをまとめたスライドを提示し、共有 ・がんに関する〇×クイズを通して、事前学習の振り返り ・本時のめあての確認 めあて：身近な人ががんになったときに、自分たちにできることを考える。 ・外部講師の紹介 講師紹介の後、講師の話を聞くに当たっての配慮について伝え、授業が辛い生徒はいないか確認（本時では該当者はなし） 	 <p>上秋津中学校</p>  <p>上芳養中学校</p>
---------	---	---

<p>講義 (約 20 分)</p>	<p>外部講師：和歌山県がん患者連絡協議会 会長 岡本 久子 氏 演題「私が体験した乳がん」</p> <p>●内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんと診断されたときの気持ち ・がんの治療法 ・子供たちのこと ・手術後の生活 ・がん患者の生活の質 ・メッセージ <p>上秋津中学校</p>	 
<p>グループ ワーク (約 22 分)</p>	<p>テーマ：がん治療に必要な支援は何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに対して個人で、がん患者を支える家族としての接し方を考える。 ・グループでがん患者を支える家族としての接し方を考え、発表 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>上秋津中学校 上芳養中学校</p>	
<p>まとめ (約 3 分)</p>	<p>外部講師からの講評</p>	

※授業後に関係者で振り返り会実施

<ICT の活用状況>

田辺市立上秋津中学校に外部講師を招き、田辺市立上秋津中学校と田辺市立上芳養中学校をオンラインで接続することで、2校同時にがん教育授業を実施した。

[上秋津中学校]

田辺市立上芳養中学校へオンライン接続を行い、講師講話の中継を実施。クラス全体が投影されるよう調整し、グループワークの発表ではホワイトボードの映りや、発表の立ち位置を平教諭が状況を見ながら生徒に指示を行い、工夫をしながら授業の進行を行った。

[上芳養中学校]

2台のモニターを活用してオンライン授業を実施。1台のモニターで田辺市立上秋津中学校の様子を映し出し、もう1台のモニターでは授業スライドを投影した。また、外付けカメラ1台でクラス全体を映し、さらに iPad を用いてグループワークの様子や発表を撮影することで、別の場所にいる外部講師にも生徒の状況が伝わるよう工夫しながら、授業が進められていた。



上秋津中学校



上芳養中学校

<外部講師活用授業の詳細>

① 事前授業(担任実施)

[上秋津中学校]

田辺市教育委員会が学校へ配付を行った、「みんなで学ぶやさしいがんの知識」(公益財団法人がん研究振興財団)を基に、事前学習を実施した。

[上芳養中学校]

保健体育にてがんについての授業を実施し、且つ、朝の読書タイムを活用して、合計で1～2時間程度の時間をかけて、外部講師を活用した授業に向けた事前学習を実施した。

② 本時・外部講師活用授業

・平教諭による事前学習の振り返りと、本時のめあての確認

がんの種類やその原因などについて、○×クイズ形式で復習を行った。

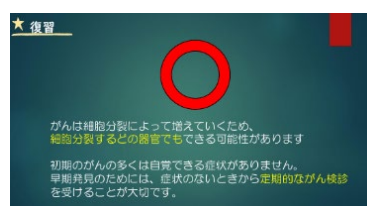
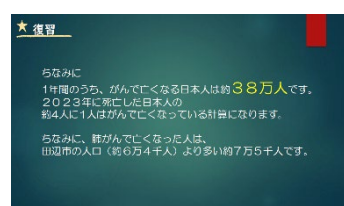
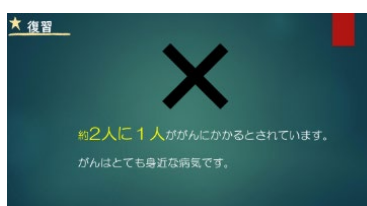
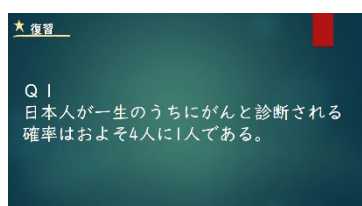
Q1 日本人が一生のうちにがんと診断される確率はおおよそ4人に1人である。

Q2 がんと診断された人が5年後に生存している確率は30%である。

Q3 がんはどこにでもできる可能性がある。

Q4 がんにかかるリスクを減らす予防法はある。

全ての設問に対して、多くの生徒が正解に手を挙げており、事前学習の内容がしっかりと身についていた様子が見受けられた。また正解、不正解の確認だけでなく、補足情報も加えながら丁寧な解説がされていた。



・外部講師講話

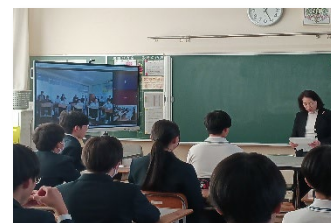
・がんと診断されたときの気持ち

胸のしこりに違和感をもち、受診し、検査を受けたが、その時はがん細胞は見つからなかった。

安心したもの、その後も胸の違和感はなくならず複数回受診したが、結局がんは見つからず、不安なまま3年間が経過した。

3年後、総合病院で見つかった時は、原因が分かってほっとした思いも

あった一方、ショック、疲労感、脱力感、一人だけ別世界に入ったような気持ちだった。当時は現在と違い、まだ専門の診療科がなかったことが、がん細胞がなかなか見つからなかった要因の一つだと考えられる。



上秋津中学校

・がんの治療法

手術療法、放射線療法、化学療法の3つの方法がある。自身は、抗がん剤とホルモン剤を10年間飲み続けなければならなかった。薬の副作用で、イライラして怒りっぽくなり、心までもがんに侵されてしまったのか、と当時は感じたものだった。

・子供たちのこと

その頃、長男が中学2年生、長女が小学1年生。長男が受験を控えていたこともあり、子供たちになかなか言えなかった。がんが見つかったことによる不安から自分の様子が普段とは違うことに子供たちも気づいていたと思うが、その理由をはっきりと聞くことができない辛さがあったのでは、と思う。

・手術後の生活

手が動かしづらいことで、重い物が持てない、調理で硬いものが切れない等、できないことが多くあった。10年間リハビリをしながら通院を続け、ついに薬も診察も今日で終わりとされた時は本当に嬉しかった。また長女の担任の先生に打ち明けた際、先生もがん経験者だったことで理解を示し、励ましてくれた。

この経験があったから、自分も同じような境遇の方に同じように、理解し、励ましたいと思い、今に至っていると思う。



上芳養中学校

・がん患者の生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）

がんの治療は、病気を治すだけでなく、治療中・治療後もその人らしい充実した生活を送ることが重視されている。これをアピアランスケアと言う。具体例として、治療による見た目の変化がある場合、メイクやウィッグで自分らしさを取り戻すことをケアの一環で推奨している。

・メッセージ

がんは他人にうつると誤解している人がいる。がんに関する誤解や決めつけがなくなる世の中になることががん患者としての願いである。

・個人で、がん患者を支える家族としての接し方を考える

外部講師の講話を聞いて、がんの治療やがん患者の生活から、家族として自分はどんなことができるのかを考えた。

・グループで、がん患者を支える家族としての接し方を考え、発表する

個人で考えたことを基に、班の人と意見をまとめ家族としてできることを発表した。

学校名	班	家族としてできることはなにか
上秋津 中学校	1 班	手伝いをして負担を減らす。悩みを聞いて励ます。
	2 班	安心できるように言葉をかける。
	3 班	辛さを感じさせないように毎日会いに行き、いつもと同じように接し、リハビリを手伝う。
	4 班	元気に接する。

	5 班	励ます、手伝いをして負担を減らす。
	6 班	辛い気持ちをまぎらわせるため、声をかける。
	1 班	がん患者ができるだけ負担が少ない生活が送れるよう私たちが助ける。
	2 班	いつも通り接する。応援する。薬を買う。
	3 班	孤独感を減らせるように、励ましの言葉をかけながら手伝いをする。

・『まとめ』グループワークの発表を聞いて、外部講師より講評

生徒が私の気持ちをよく聞き取ってくれ、内面を理解しようとしてくれているようで嬉しかった。特に、「元気に接する」「励ます」ということは、病気の立場にある者にとって非常に嬉しいと感じた。



上秋津中学校

・授業の感想（抜粋）

[上秋津中学校]

- ・がんは気持ちも体もしんどいことだと分かりました。そんな中、励ましの言葉や手伝い、リハビリのサポートはとても心の支えになると分かりました。もし家族ががんになったらしっかりサポートしてあげようと思いました。
- ・がんが治った後でも、苦しい思いをしていたことを知りました。自分もなるかもしれないと重みを感じ、気をつけて生活したいと思いました。
- ・早期発見が大切だとよく分かりました。もし家族ががんになってしまったら、今日受けた授業の内容を思い出し、向き合えるようにしたいです。
- ・がんのことも最初は何も知らなかったが、今回話を聞いてがんによって生活が大変になることもある辛い病気だということが分かった。がんになっても治るということに安心した。

[上芳養中学校]

- ・乳がんの苦しさや、子供に言えない悲しさについてとてもよく分かりました。
- ・病気になってしまうと、孤独を感じ、気持ちが暗くなってしまうことがあるので、そういう人が近くにいたら励まして元気づけたいと思いました。
- ・がんは誰もがなる病気なので、もし身近な人や自分ががんになっても普段と変わらずに接して、がん患者に負担の少ない生活を送らせることが大切だと分かりました。

3.児童生徒の様子

＜学習への意欲や発言の様子（発言内容）等＞

[上秋津中学校・上芳養中学校]

外部講師の講話では、メモを取らずに話を聞くよう指示があり、生徒たちは集中して講師の話に耳を傾けていた。

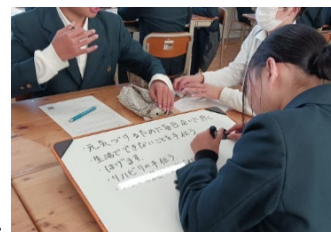
田辺市立上芳養中学校は、画面越しでの講話視聴であったが、生徒は真剣な眼差しで画面を見つめ、外部講師の実体験に集中して耳を傾けている様子が伺えた。

<グループ活動での様子や対話 等>

[上秋津中学校・上芳養中学校]

各班で、個人で考えたことを活発に発表し合った。各班での意見のとりまとめはホワイトボードを活用していた。

外部講師が各班をまわり、話し合いが進みやすいようアドバイスをしていた。上秋津中学校から上芳養中学校に対して呼びかけを行い、外部講師へ質問があれば画面を通じて行うよう、グループワーク中も学校間での連携を途切れさせないよう工夫を行っていた。



上秋津中学校

[上芳養中学校]

全員で9名、グループ活動は3人ずつの3グループで実施した。授業者から見て普段は授業での発言が少ない生徒も、外部講師の生の声に刺激を受け、個人ワークで考えた意見を基に、グループで積極的に意見を出し合い、考えをまとめることができていた。



上芳養中学校

<生徒の具体的な対話内容やワークシートの記述内容 等>

[上秋津中学校]

「励ます」や「元気づける」など、心の支えとなるようなワードが多く上がっていた。講師の講話から、当時、自分たちと同じ学年の子供がいたことに対して、自分事としての考えを盛り込んだ話をしていた様子が見られた。

[上芳養中学校]

「がんだからと特別に接するのではなく、これまで通りに接する方が良いのでは」「家族だからこそ応援できる」といった意見があり、最終的に「これまで通り接しつつ、家族として応援していく」という考えにまとめていた。

4. 授業を行うまでの外部講師とのマッチングや調整の流れ

・外部講師を派遣するまでの流れ

和歌山県教育委員会が、令和7年2月にモデル校の募集を行い、応募のあった田辺市立上秋津中学校の希望を踏まえ、外部講師リストより選出した。

・外部講師との事前調整の方法、回数、要した時間 等

外部講師決定後、和歌山県教育委員会が外部講師及び配信元である上秋津中学校(以下配信元モデル校)と日程を調整し、和歌山県教育委員会担当者及び田辺市教育委員会担当者同席のもと、事前打合せを実施した。事前打合せの際に、外部講師及び配信元モデル校と協議の上、ICTを活用し、他校と一緒に授業を行うことが決定した。

配信先の実施校決定後、当該学校に対し和歌山県教育委員会担当者が授業の進め方及び事前打合せの内容等を伝えた。授業日当日には、各実施校において、和歌山県教育委員会、田辺市教育委員会の担当者が最終打ち合わせを行った。なお、外部講師は配信元モデル校から最終打ち合わせに参加した。

5. 振り返り会内容

※配信元、配信先学校をオンラインで繋ぎ振り返り会を実施

- ・新たな授業の形として一歩を踏み出せたと思う。
- ・自分の学校の生徒は、ある程度どのような発言をするか想像ができるが、他校の生徒の考えが聞けることが教員としても合同授業の良い点に感じた。
- ・和歌山県は南北に広く、医者も学校医も忙しい。ICTを活用した今回の授業は県の特徴からしても良い取組だと感じた。
- ・カメラの向きや、モニターの状態など、事前の確認・調整がさらに必要だと感じた。
- ・ロイロノートを班で1つ活用し両校をつなぐなどの工夫もできるのではないかと思った。
- ・講師の表情が、画面越しで分かるようにカメラの前で話すなど工夫ができると良かった。
- ・生徒が真剣に話を聞いており、集中できていた。